



機械クラブだより ー第 28 号ー

2025（令和 7）年 9 月 1 日

◎ ご挨拶	2
機械クラブ会長 P⑥ 井宮 敬悟	
◎ 機械工学専攻の近況	2
◎ 2024 年度機械クラブ総会	2
◎ 総会記念講演会	3
◎ 新入会員歓迎会	4
◎ 先輩は語る講演会	4
◎ 2025 年度第 1 回理事・代表会	6
◎ 第 11 回基幹座談会	6
◎ 機械クラブゴルフ同好会（KTCMG）報告	7
◎ 学生自主活動状況報告	8
◎ M26&P7 同窓会 報告	8

2025 年機械クラブ年会費納入者名簿（7 月 25 日現在の中間報告） 別冊

◆ 年会費納入のお願い

・年会費：2000 円/年 複数年分（5 年分）の納入も可能。

会員皆様の年会費を基に、母校機械工学専攻の教員や在学生への支援、フォーミュラー・レスキューロボットの学生自主活動への支援、更には大学と連携して講演会・見学会・座談会を開催したり、機関誌発行等の事業活動を行っております。ぜひとも年会費の納入をお願いいたします。納入方法については、最終ページや別冊をご覧ください。

◆ E メールアドレス登録のお願い

機械クラブや KTC（工学振興会）では、皆様の手元に活動情報をいち早くお届けするためにメール配信を重要視しております。まだ未登録の方や変更の生じた方は、ぜひとも次のどれかの方法で登録していただきたくよろしくお願いします。

- メールアドレス・住所の登録、変更専用連絡用フォームでの登録
連絡用フォームの URL、または QR コードにアクセスして登録してください。 URL：<https://forms.gle/PT3q379RPPPgEHA7>
- 機械クラブのメールアドレス（kctcm@kctcm-kobe.com）への連絡
- 年会費の払込用紙への E メールアドレス記載



◆ 機械クラブホームページのご案内（ URL：<https://kctcm-kobe.com/> ）

機械クラブの活動情報を随時更新しておりますので、ぜひともホームページもご覧ください。

◆ お知らせ

工学部同窓会設立 100 周年記念式典・懇親会開催について

開催日：11 月 16 日（日）13:00～17:00

会 場：神戸ポートピアホテル 偕楽の間

会 費：1 万円

◆ ご挨拶

機械クラブ会長 P⑥ 井宮 敬悟

3月25日の総会で、今まで3年間会長を務められた玉屋 登氏の後任として会長職に就任しました井宮です。よろしくお願いいたします。

今年は、神戸大学工学部の同窓会組織であるKTC並びに機械クラブの創立100周年で、これからの100年を目指すスタートの年で、非常に身の引き締まる思いです。

機械クラブの主な活動は、

- ① 神戸大学や機械工学科の先生方、学生への支援
- ② 自主活動であるフォーミュラーチーム「FORTEK」とレスキューロボットチーム「六甲おろし」への活動支援
- ③ 機関誌「機械クラブだより」の発行
- ④ 講演会・座談会・見学会等の会員親睦活動

これらの活動は、会員皆様方からの年会費(2,000円)とご寄附によって成り立っておりますが、年会費を納めていただいております会員数が漸次減少しており、機械クラブの活動をこのまま続けていくことも厳しくなっております。

微力ながら機械クラブの発展に努め、大学の研究活動や学生に対する支援活動を継続するとともに、会員相互の絆を大切に活動継続して行ってまいりますので、会員の皆様方のますますのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◆ 機械工学専攻の近況

機械工学専攻長 今井 陽介

天気予報の気温を示す色は紫色、毎日のように熱中症警戒アラートが出され、授業や会議のために棟を移動するだけでも汗が噴き出てきます。何月から何月までが夏なのか分からなくなり、いよいよ酷暑と共存する時代が来ていると感じます。

現在の機械工学専攻の体制を紹介いたします。2025年4月、先端機能創成学講座の上杉晃生先生が富山県立大学に講師として転出されました。また、材料物理講座の塩澤大輝先生が同講座の教授に昇任され、システム設計講座の教授に中央大学から鈴木教和先生が着任されました。2025年7月、機械工学事務室事務補佐員の春藤真美さんが退職され、新たに、八幡薫さんが着任されました。また、2025年8月、熱流体講座の栗本遼先生が准教授に昇任されました。先生方の退職、転出が続いておりますが、新たに若い先生を迎え、教育研究環境の充実を図っているところです。現在の構成表を



P10に示します。教育研究活動に関して、2024年度学部入学生より、研究力のある学生を育成する特別プログラムを開始しました。現在は、従来の研究室インターンシップを発展させた「研究分野探求」を学部2年生が受講しているところです。他の授業も忙しい中で楽しそうに研究活動を経験しており、中には、大学院生よりも熱心に文献調査をしてくる学生もいます。3年次には、研究室への早期配属に相当する「特定分野研究」を受講することになっており、彼らがどのように成長していくのか、非常に楽しみに思っているところです。

以上、簡単ではありますが、機械工学専攻の近況を報告させていただきました。今後とも、機械工学専攻の教育研究活動にご支援賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

◆ 2024年度機械クラブ総会

日時：2025年(令和7年)3月25日(火)

12:15~13:55

場所：神戸大学工学部5W—301教室

出席者：玉屋会長、横小路専攻長を始め、対面出席22名、オンライン出席5名、計27名

総会内容の内、2025年度事業計画、機械クラブ表彰、各部会活動計画について下記に記載します。

詳細は機械クラブホームページを参照ください。

1. 2025年度活動計画

(主な活動予定)

- ① 理事代表会：年2回開催(6月、12月)
- ② 講演会：年3回開催(5月、11月、12月)
- ③ 見学会：年1回開催(9月)
- ④ 座談会：年2回開催(6月、12月)
- ⑤ 会員親睦(KTCMG)：年4回開催(3月、4月、10月、12月)
- ⑥ 機械クラブ東京支部総会：7月
- ⑦ 機械クラブ総会・記念講演および新入会員歓迎会(機械工学専攻主催の卒業・修了生の歓送会と同時開催)：3月
- ⑧ 機械クラブだより発行(9月、3月)

2. 2025年度予算

【収入】単位：千円

	科目	予算
1	前年繰越金	1,447
2	年会費・寄附金	950
3	KTC 単位クラブ協力金	252
4	新入会員歓迎会参加費	60
5	各部会活動参加費	172
6	当期収入	1,434
7	合計	2,881

【支出】単位：千円

	科目	予算
1	母校支援（教員・学生表彰・学生自主活動支援）	530
2	新入会員歓迎会費用(教員・学生招待)	270
3	機関誌発行	320
4	講師謝礼・東京支部・会員親睦活動支援	170
5	親睦会費用(教員・学生招待)	259
6	事務費、予備費	140
7	当期支出	1,689
8	繰越金	1,192
9	合計	2,881

※皆様方からの年会費（2,000 円）及び寄付等の収入を基に活動しております。

年会費収入が少なくなっており、繰越金を毎年 20 万円以上利用して運用しております。皆様方からの年会費納入をよろしく願います。

3. 2025 年度機械クラブ役員

会長	井宮 敬悟(P⑥)
副会長	稲見 昭一(M③⑩)：財務部会長 西田 勇(M56)：機関誌部会長 浅野 等(M③⑥)：講演会部会長 尾野 守(M③⑩)：見学部会長 岩出 知之(P②②)：会員親睦部会長 井宮 敬悟(P⑥)：座談会部会長兼務 近藤 和憲(M②⑧)：東京支部長
特別会員代表	今井 陽介（機械工学専攻長）
学内幹事	浅野 等(M③⑥)
監事	小嶋 弘行(M①⑨)、舟橋公廣(M②②)
顧問	谷井 昭雄(PⅡ)、井上理文(M②②) 永島 忠男(M⑨①)、薮 忠司(M①②②) 富田 佳宏(M①⑥①)、平田 明男(M①⑧③) 玉屋 登(M②①①)

4. 機械クラブ表彰

【現教員表彰】

➤ 機械クラブ賞（2 名）

① 村川 英樹准教授

2024 年度日本混相流学会 論文賞受賞：
超音波トモグラフィ法を用いたガリウム合金中を上昇する気泡鎖の断面分布に及ぼす水平磁場の影響解明

② 長谷部 忠司准教授

マルチスケール塑性論の場の理論
2024 年 1 月に 800 ページ以上の論文を世界

で初めて出版し、当該分野で世界初の成書として世界的に話題を呼んだ。

【学生表彰】

➤ KTC 理事長賞（1 名）

・小峰 龍也(MH-2 M2)：

推薦者：栗本遼 助教

研究活動における顕著な成果 国内学会優秀発表賞 1 件、国内学会優秀発表賞 1 件、国際学術雑誌論文(連名)1 編ほか学業における顕著な活動が確認され、よく勉学に励まれた。

➤ 機械クラブ会長賞（1 名）

・安藤 寛峻(MI-1 M2)：

推薦者：磯野吉正教授

課外活動（陸上競技）と学業の両立

➤ 国際活動奨励賞（3 名）

①山口 汰生(MI-2 M2)：

推薦者：向井敏司教授

第 19 回アルミニウム合金国際学会(USA)

衝撃荷重下における強ひずみ加工を施した Al-Mg 合金の圧縮変形応答

②赤井 彰太(MH-3 M2)：

推薦者：浅野等教授

冷凍空調における Herrick Conference USA 沸騰開始壁面過熱度に及ぼす冷媒物性の影響

③五十嵐 亮太(MH-2 M2)：

推薦者：林公祐教授

第 34 回移動現象に関する国際シンポジウム 矩形マイクロチャネル内テイラー気泡の形状に及ぼす界面活性剤の影響

◆ 総会記念講演会

日時：2025 年(令和 7 年)3 月 25 日(火)

15:00～16:00

場所：神戸大学工学部 5 W—3 0 1 教室

講師：川崎重工業株式会社

井上 健司氏(M③②)

題目：国際液化水素サプライチェーン構築への取組と脱炭素への貢献

講演内容：

はじめに卒業生および修了生に向けて、お祝いのお言葉をいただき、自身の自己紹介をされた。オートバイに高校生の頃から乗られており、オートバイに関する仕事ができることに期待して川崎重工業に入社された。期待したオートバ



イに関する仕事ではなく研究所に配属されたものの、研究の仕事が楽しかったとのことであった。

次に会社の概要をご説明いただいた。陸海空の大型輸送機器、ガスタービン、産業ロボット、オートバイ及びオフロード四輪車が現在の主力事業とのことであった。また今後注力していく事業が紹介された。その一つがシスメックスと協業している手術ロボット「hinotori」であり、手塚治虫の大ファンであった社長が手塚プロダクションから許可を得て命名した逸話が紹介された。他にも無人ヘリコプターや医療現場における無人搬送ロボットについて紹介された。特に注力していく事業が「水素サプライチェーンの構築」とのことであった。

川崎重工が水素を手掛け始めたのは2010年であった。研究所内の将来テーマ企画において、他の重工業企業に比べてエネルギー分野が弱かったことや将来CO₂排出問題が大きくなることから、水素に関する事業がスタートした。そして、水素に関する一製品を扱うのではなく、水素を「つくる」「はこぶ」「ためる」「つかう」までを網羅したサプライチェーンを目指したとのことであった。

これまでに川崎重工業で製造された水素関連製品について説明された。H3 ロケット用水素タンク、トルクメニスタンにおける天然ガスから改質した水素から肥料を製造するプラント、HySE (Hydrogen Small mobility & Engine technology) の取り組みとして2024年のダカールラリーにおいてカーボンニュートラル部門で2位となった水素エンジンを搭載した四輪車について紹介された。さらに、水素レシプロエンジンを搭載したオートバイについては、オートバイと過給機の技術を持つ川崎重工業だからこそ最適設計ができたと説明された。開発のプロジェクトマネージャーも神戸大学の機械工学科をご卒業されたとのことであった。

次に、水素サプライチェーンに関してご説明いただいた。川崎重工業はKawasaki 地球環境ビジョン2050を設定し、CO₂を発生しない製造、CO₂の排出を大きく抑制した製品を目指している。直近の目標として、2030年までに国内工場をカーボンニュートラルにすることを計画しており、水素ガスタービンによる発電、CO₂の利用などを想定している。水素サプライチェーン事業開始当初、水素の精製として天然ガス、石炭、石油からの改質を計画していた。最終的には、太陽光・風力などの再生可能エネルギーを用いて電解により水素を精製することを想定している。水素の国際輸送実績がなかったため、輸送に関するプロジェクトが開始し、世界初の液体水素運搬船であるすいそふろんていあが開発された。水素運搬船の開発自体よりも国際海事機関の承認を得ることのほうが大変であることも紹介された。

水素利用についての国の動きとして、2011年に東日本大震災が発生したことにより、原子力発電所の停止やグリーン電力の必要性から水素が注目され始めた。そして、2014年にエネルギー基本計画に水素について初めて記載された。2024年には水素社会推進法が成立している。2030年頃には水素サプライチェーンをスタートさせることを要望されており、そのためには船の大型化、基地の大型化が必要となっており、その開発が進められていると説明された。

民間の動きとして2017年ダボス会議において、国内外13社を集めてHydrogen Councilを結成した。その後様々な企業の参画を募集し、現在は150社(2023年1月)が参画している。世界では現在総額100兆円規模のプロジェクトが動いていると説明された。

最後に卒業生および修了生に向けて、自己利益を優先する風潮があるが、ビジネスを長く続けていくためには三方良しの精神が必要があることが伝えられた。また、色々なことにチャレンジしてほしいとの激励のメッセージがあり、講演を締めくくられた。

◆ 新入会員歓迎会

日時：2025年3月25日(火) 17:00～19:00

場所：神戸大学国際文化学部食堂

参加者：84名（卒業・修了生51名、教職員他20名、機械クラブ会員15名）

機械工学専攻が主催する卒業・修了生歓送会と同時開催で機械クラブが主催する機械クラブ新入会員歓迎会を行い、学歌斉唱を含め、非常に盛況な会となった。



◆ 先輩は語る講演会

日時：2025年5月14日(火) 8:50～10:00

場所：国際文化学部 F棟 F301 教室

講師：原子力エンジニアリング株式会社

赤川 純一 氏

題目：原子力産業界における機械工学科出身者の業務経験

講演内容：

まず、初めに自己紹介をされた。学生時の研究テーマとしては、混相流工学研究室に所属し、蛍光物質の蛍光が失われる「フォトリチング反応」を利用し、画像情報から流速等の情報を得る手法の



開発や、キャビテーション現象を利用したマイクロバブルの生成挙動の把握を目指す研究を行っていたことが紹介された。マイクロバブルの直径や移動速度を計測するための手法を開発していただけでなく、企業との共同研究も行っていたことが紹介された。研究テーマに関連した製品が実際に企業から販売された経験もあったことが紹介された。

続いて、現在所属されている会社の紹介があった。現在の会社は関西電力グループに所属しており、電力会社でもメーカでもない、独自の立ち位置から高度なエンジニアリングを提供している会社である。エンジニアリングとは、新規技術の開発や既存技術の応用などを通じた課題解決を行うことである説明があった。ビジネス領域としては、原子力発電所内全体の多岐にわたる内容を担当しているとのことだった。特に、数値解析技術を用いた炉心管理や確率論的リスク評価、保全技術に関するサービスの提供、発電所の建設や廃炉に関する技術提供、運転訓練用シミュレータの開発などに関するソフトウェア技術の提供、さらにはロボット技術を用いた検査の実施などを行っている。

次に、原子力産業界の現状について、ご説明いただいた。政府が制定するエネルギー基本計画に従って研究開発を進めている。2025 年 2 月に制定された第 7 次エネルギー基本計画では、「S + 3E」（安全性、安定供給、経済効率性、環境適合性）の原則を維持することが掲げられているとのことだった。また、核融合などを含む、次世代革新炉の研究推進も明記されている。バックエンドプロセスとよばれる廃炉、使用済み燃料の最終処分に関する課題も明記されている。原子力発電所には、沸騰水型炉（BWR：炉内で冷却水を沸騰させ、発生した蒸気をそのままタービンに送り、発電機を回す方式）と加圧水型炉（PWR：炉内の圧力を高め、沸騰させずに高温・高圧にした水を用いて蒸気発生器で発生させた蒸気をタービンに送り、発電機を回す方式）がある。現在日本では、14 基の原子力発電所が稼働している。世界の原子力の利用動向としては、カーボンニュートラルの実現や、AI 技術のさらなる活用にもともなう電力需要の増加によって、新たに原子力利

用を進めようとする国が増えているとの説明があった。

次に、業務経験の紹介をされ、その中でも蒸気発生器細管検査について説明された。PWR 型の炉に使用されるもので、蒸気を発生させるものではあるが、内部構造は複雑である。内部には 3000 本を超えるたくさんの細い伝熱管が束ねられており、その管内には放射性物質を含む一次冷却水が流れている。管に小さな傷があれば、一次冷却水が二次側に漏れ出る可能性がある。そのため、定期的な検査が重要となる。検査は 1 本ごとにセンサを挿入して行っており、総延長は 70km を超えるため、非常に時間を要する。また、放射線下で行う必要があるため、ロボットでの遠隔操作を行っている。このような検査技術を保有しているのは、国内でも自社を含め 2 社しかないとのことだった。この検査で得られたデータの解析員として社内資格および公的資格（日本非破壊検査技術者資格、米国 QDA 資格）を取得して担当していたとのことだった。また、データ解析をする一方で、高性能センサの開発にも従事され、センサ設計、構造設計や性能試験を担当されたとのことだった。センサに関する開発技術を学術論文で公開したり、技術特許を取得したりした経験がご紹介された。次に、海外情報調査に関する業務内容が紹介された。この業務は、電力会社の担当者に代わり、海外情報の収集、整理、実務への影響度、適用性の検討など、技術的なサポートを提供するものであり、米国電力研究所に駐在員として赴任した経験を紹介された。自分の業務を新しい視点でとらえる機会であり、いい経験ができたとのことである。

次に、大学での学びと実務とのつながりについて、お話いただいた。高性能センサの開発に関しては、機械工学科で学んだ専門科目の知識をそのまま活かすことができたとのことだった。しかし、大学で学ぶということと、実務への提供ということの違いを感じることも多かった。海外情報調査に関しては、英語論文を読むということに関しては、抵抗感なく実務に使えた。また、学術論文を読んで理解するということも大学で培った力が役にたった。また、卒業論文をまとめた経験が、業務報告書を作成する上では、非常に役にたった。機械工学科は幅広い分野を学ぶことができたので、異なる分野に進んでも何かしらの関連を見つけることができると感じた。また、大学での研究活動を通じて、困難な場面に直面した時の対応能力が身についたと感じた。研究では実験が最初からうまくいくことはめったにないという経験が業務で活かされたとのことだった。

最後に、学生へのメッセージが伝えられた。機械工学科で学ぶことは多岐にわたるが、必ず実務で活かされるものであるため、しっかり学んでほしいと

のことだった。また、数式を丸暗記するのではなく、その意味を考えて理解してほしいとのことだった。また、4年生から配属される研究室での生活は非常に有意義であることなので楽しみにしてほしいとともに、積極的に研究に取り組んでほしいとのことだった。また、大学では多様な人とのつながりやたくさんのチャンスにあふれているので、それらを積極的に活用してほしいとの強い想いを伝えていただいた。

◆ 2025 年度第 1 回理事・代表会

日時：2025 年 6 月 7 日(土) 13:00～14:30

場所：神戸大学工学部 5W—301 教室

▶ 長年にわたって機械クラブの活動にご尽力を尽くしてこられた「島一雄氏(P5)」がお亡くなりになり、また、新年度になって機械工学専攻長の交代やKTC 役員・代議員の交代に伴う役員人事・組織の変更を報告した。

(機械クラブ役員一覧表は、ホームページ参照)

▶ 機械クラブ会員と年会費納入状況について
卒業生 8,773 名 現存会員数 6,829 名
物故者 1,944 名、メールアドレス登録者数 2,330 名(34.1%)

機械クラブの年会費納入状況を示した分析資料に基づいて、今の課題を説明し、今後の対応策を検討していくこととなった。

(1)年代別年会費納入者数とメールアドレス登録数について

- ・年会費納入者は、60 歳以下が極端に少なくなっており、今期の予算でも示しましたように、収入より支出が多く 20 万円ほど繰越金を使用して運営している。
- ・メールアドレスの登録者数は、40 歳代、50 歳代が極端に少ないことが分かった。いずれにしても、60 歳以下の掘り起こしをどのようにしていくか検討する。

(2)年会費の納入方法について

今はゆうちょ銀行と三井住友銀行口座払込方式を利用しているが、銀行払込方式だけでなく「年会費徴収代行サービス」、「クレジットカードによる徴収」なども検討を進める。

(3)機械クラブのホームページリニューアル

- ・ホームページを携帯電話(スマホ)でも見やすくするとともに、会員名簿の電子化のための情報セキュリティ対策を盛り込んだホームページの構築を図る。リニューアルしたホームページでも、旧ホームページにアクセス可能としています。但し、旧ホームページは更新していませんので最新の情報は新ホームページをご覧ください。

- ・ホームページ以外で、機械クラブを広く知ってもらうため、SNS、Facebook、instagram、X、LINE などの活用を検討し、若い世代に機械クラブの活動が分かってもらえるようにする。

◆ 第 11 回基幹座談会

日時：2025 年 6 月 7 日(土) 14:45～16:15

場所：神戸大学工学部 5W—301 教室

講師：株式会社神戸製鋼所

辻辺 博一氏 (P12)

題目：エネルギー政策に準じた電力事業における取組について

<要旨>

日本を取り巻くエネルギー情勢は、「ロシアによるウクライナ侵略や中東情勢の緊迫化」、「DX や GX の進展に伴う電力需要増加見込み」、「カーボンニュートラルに向けたアプローチの拡大」など、大きく変化しています。

このような中、エネルギー政策の要諦である S+3E(安全性、安定供給、経済効率性、環境適合性)に貢献すべく取り組んでいる電力事業について紹介致されました。

<質疑、意見交換>

(質問・意見) ロードマップで高効率化が挙がっていたが、世の中のトレンドは石炭火力から LNG だが、そのような取り組みはないのか。

(回答) 石炭火力の設備をガス火力の設備に改造することは極めて困難(蒸気タービンをガスタービンに変えるなど)です。

(質問・意見) CO₂ 吸着、CCS (二酸化炭素回収・貯留) などにも取り組む必要があると思うが神鋼はどう考えるか？

(回答) 当社は CN (カーボンニュートラル) への挑戦をアンモニア 20%混焼から始める。将来的にはアンモニア高混焼、CCS や CO₂ 吸着等の技術開発が進むと思うので、その時点で最適な技術を選択して CN への挑戦を進めていく。

(質問・意見) ロードマップでカーボンニュートラルに向けての 2040 年の削減見通しが妥当と考えているのか。国の方針も本当に成立するのか。

(質問・意見) 神戸大から立ち上げたベンチャー企業でメタンから化成品を作る取り組みを行っている。このようなカーボンを還流させる取り組みが課題。

(質問・意見) 学生に向けて、どんな勉強が必要か。

(回答) 学部卒だが、教科書に載っているような、梁のたわみの公式とか、ベルヌーイの定理やボイルシャルルの法則などが役に立った。会社へ

入ってからの方が勉強した。
 (質問・意見) 将来、プロジェクトを引っ張っていくためにはコミュニケーション能力や語学力も必要。企業の学生に対する期待度がこれまで以上に高まっている。
 (質問・意見) 石炭火力が嫌われているのはマスコミと金融分野だが、同調する金融機関が脱退しつつある。この様なトレンドもあるので、複眼で見て、自分で考えることが重要。特に CO2 に関しては状況が複雑なので複眼思考が重要。
 時間の限られた中ではありましたが、活発に意見交換することができました。



◆ 会員親睦会 (KTCMG ゴルフ同好会)

I. 第 192 回コンペ報告

今年初回の第 192 回は、天気にも恵まれ東条の森カントリークラブ宇城コースで開催しました。15 名の参加者で活気あるコンペとなりました。

3 位に入賞された稲塚さんの同期 30 回生の方が 3 名となり、会員が増えていることは嬉しいことです。27~29 回生、31 回生以降の方にもご参加していただけるよう、ご協力お願いいたします。

結果概要

開催日：2025 年 3 月 21 日

場 所：東条の森カントリー倶楽部 宇城コース

参加者：finisher 15 名

➤ 上位入賞者の成績

順位	氏名	GRS	HDCP	NET	新 HDCP
優勝	國光秀昭	95	21	74	16
2 位	重近 實	89	14	75	11
3 位	高橋久雄	104	26.4	77.4	22

参加者のコメント

優勝者 國光氏：

幹事の時に作った優勝盾が 3 年ぶりに私のもとに帰ってきてくれました。機械クラブ会長

寄贈のガラス製の盾で背面に優勝者リストを入れるケースを接着するのに苦労したのを覚えています。

初参加 平井氏：

参加枠に空きがあるということで、同じ 30 回生の稲塚さんに誘ってもらい参加することになりました。また、参加したいと思いますので皆様よろしくお願いいたします。



後列：長谷川圭 逢坂慎一郎 市橋誠
 大和敏郎 柄谷祐司 谷民雄 中瀬秀雄
 稲塚徹 北川保夫
 前列：岩出知之 高橋久雄 重近實
 國光秀昭 山田拓士 平井孝明

II. 第 193 回コンペ報告

今年 2 回目となる第 193 回は、絶好のゴルフ日和の中、いつもとは会場を変え神有カントリー倶楽部で開催しました。今回はより会員親睦を深めるため同年代の組み合わせではなく、組の平均年齢が均等になるようにしました。

表彰式では次回開催コースの話や第 200 回の話がでるなど、会話が盛り上がってきたのも組み合わせを平均年齢化した効果もあったのかと嬉しく思います。

結果概要

開催日：2025 年 5 月 23 日

場 所：神有カントリー倶楽部

参加者：finisher 13 名

➤ 上位入賞者の成績

順位	氏名	GRS	HDCP	NET	新 HDCP
優勝	植田敏明	78	11	68	5
2 位	北川保夫	98	26	72	22
3 位	平尾雅男	96	23	73	20

参加者のコメント

優勝者 植田氏：

神有 CC は私のメンバーコースですので、気を遣えと叱られそうです。腰と肩を痛めて 90 を切るのがやっとでしたが、今日は昼から 2 バーディ 2 ボギーのパープレーで 70 台を出せて嬉しいです。同伴メンバーに感謝です。



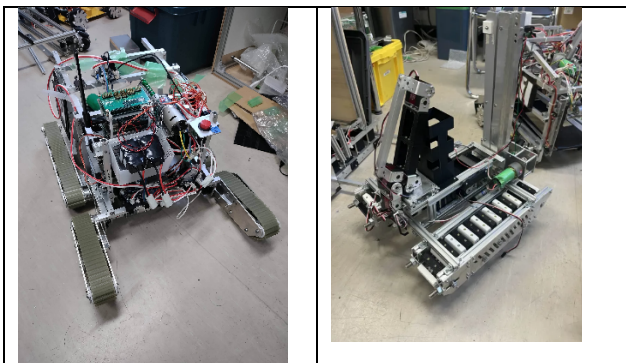
後列: 重近實 中瀬秀雄 稲塚徹 中谷彰宏
平尾雅男 長谷川圭 植田敏明
前列: 柄谷祐司 北川保夫 國光秀昭
高橋久雄 吉川彰 岩出知之

◆ 学生自主活動状況報告

①フォーミュラーチーム「FORTEK」

我々、神戸大学学生フォーミュラチーム FORTEK は、自動車技術会主催の"学生フォーミュラ日本大会"に出場しています。学生フォーミュラは決められたレギュレーションの中で車両の設計・製作を行い、車両の性能だけでなく製作にかかるコストや、販売戦略まで、ものづくりの総合力を問われる競技です。

昨年の 9 月に行われた学生フォーミュラ日本大会 2024 では、総合 3 位を獲得し、コロナ禍での種目制限があった大会を除くと、過去最高の成績となりました。車両性能を競う動的審査、書類作成やプレゼン能力を競う静的審査の両方で満遍なく点数を取ることが出来たのが大きな理由です。取れるはずの点数を取りこぼしたことがあったことも確かです。2025 年大会に向けては、取りこぼしたところを確実にとりきり、さらに今ある車両のポテンシャルを最大限発揮出来



【2号機】

【3号機】

るような設計に取り組み、車両の製作、静的審査資料の作成も行っておりまいました。今から 9 月

の大会の結果が楽しみです。

大会の出場には、機械クラブ様をはじめとするスポンサー企業の皆様の支えが欠かせません。

今後とも、我々への温かいご支援、ご声援のほどよろしくお願い致します。



②レスキューロボットチーム「六甲おろし」

神戸大学ロボット研究会「六甲おろし」は、「レスキューロボットコンテスト®」に向けて、災害現場を模した環境で被災者を優しく救助できるロボットの製作に取り組んでいます。2025 年度は、本選出場と入賞を目標に既存機体の 2 号機の改良と、新たに 3 号機・4 号機の製作を進めています。

2 号機は、前年度に課題となった階段を登れない問題に対し、機体の軽量化と救助機構の改良を行い、階段の昇降が可能になりました。

3 号機は、被災現場での状況確認や物資搬送を担う探査用ロボットとして昨年度から製作を進めてきたもので、今年度、制御システムが完成し、大会に出場できる状態になっています。現在は、「ハンモック型救助機構」を搭載した救助専用ロボットである 4 号機の組み立てと制御開発を進めておりさらなる性能向上を目指しています。

部員は機械工学科を中心に 12 名が在籍し、CAD や 3D プリンターを活用しながら、設計と製作に日々取り組んでいます。

また、ロボット製作だけでなく、地域のイベントや大学の催しにも積極的に参加し、子ども向けのロボット展示や操縦体験、ワークショップを通じてのものづくりの楽しさや技術の魅力を広く伝えています。

今後とも、温かいご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

◆ M26&P7 同窓会 報告

卒業以来、初めての同窓会を 2016 年 11 月に開催、コロナが明けた 2023 年 4 月に第 2 回目、そして多くの方が古希を迎える今年、2025 年 4 月 25 日に第 3 回目の同窓会をホテル北野プラザ六甲荘にて開催しました。遠く北海道からも

参加していただき、初参加の人も含め計 22 名が集いました。また、引き続き行われた 2 次会にも 17 名参加され、大盛況のなか楽しい時間を過ごしました。

同窓会は、代表幹事のあいさつと乾杯で始まり、歓談、各自のスピーチで近況報告をしていただきました。まだまだ現役でバリバリ仕事に頑張っている人、完全フリーとなり自分の時間を楽しんでいる人、農業に勤しんでいる人、大自然の中に移住した人、自分の子供達に学生時代の勇姿を見せるために大学に自分の修士論文閲覧を依頼した人も。各自の近況報告で沢山の情報交換もでき、和気あいあい昔話にも大きな花が咲きました。参加できなかった人の中には体調不調で参加できない旨のコメントもあり、健康の大切さを痛感しました。

次回の幹事も決まり、また元気な姿で再会できることを祈りつつ散会しました。

幹事：松本研 中谷、中山、萩原、藤原、前田、西濱（代表）

後記:今回の同窓会に際して、幹事会という名のもと、実質的には飲み会を神戸、大阪、そして松山道後温泉で計 6 回開催しました。その都度、同窓会の内容に関しては短時間の議論で終わり、それ以外は宴会状態で大いに盛り上がり、時にはカラオケのはしごをしたり。幹事役を務めることで、学生時代に戻ったような楽しい時間を持つことができました。同窓会が無事に終わり、ほっとしています。皆様、ご協力ありがとうございました。

◆ 今後の活動予定

- 見学会：10 月 15 日
- ホームカミングデー：10 月 25 日
- 「機械工学先端研究」講演会：11 月 8or9 日
- 工学部設立 100 周年記念式典：11 月 16 日
- 第 2 回理事・代表会：12 月 6 日
- 「若手研究者は今」講演会：12 月 6 日
- 第 8 回機械技術者生活を語る座談会：12 月 6 日
- 会員親睦ゴルフ同好会：10 月 3 日、12 月 5 日
- 2025 年度総会・講演会：2025 年 3 月 25 日

神戸大学工学部M 26/P7 第3回同窓会

日時：2025.4.25 場所：ホテル北野プラザ六甲荘



◆ 機械工学専攻 構成表

(2025年9月1日現在)

(機械工学専攻 HP : <http://www.mech.kobe-u.ac.jp/index.html>)

講 座	教育・研究分野	教 授	准教授	助教・ <u>助手</u>	技術職員，事務職員など	
熱流体	先端流体工学 (MH-1)	今井 陽介	片岡 武	石田 駿一	芳田 直征	八幡 薫 朝岡 美紀
	混相流工学 (MH-2)	林 公祐	栗本 遼			
	エネルギー変換工学 (MH-3)	浅野 等	村川 英樹	杉本 勝美		
材料物理	構造安全評価学 (MM-1)	阪上 隆英 塩澤 大輝			古宇田 由夫	
	破壊制御学 (MM-2)		田川 雅人	横田 久美子		
	構造機能材料学 (MM-3)	田中 克志	長谷部 忠司			
システム 設計	機能ロボット学 (MA-1)	横小路 泰義	田崎 勇一 中楯 龍*		片山 雷太	
	センシングデバイス学 (MA-2)	神野 伊策	肥田 博隆	権 相暁		
	生産工学 (MA-3)	鈴木 教和	西田 勇			
先端機能 創成学	ナノ機械システム工学 (MI-1)	磯野 吉正 菅野 公二*	本間 浩章	上杉 晃生	中辻 竜也	
	材料設計工学 (MI-2)	向井 敏司*	池尾 直子			
工作技術センター		技術職員：大槻 正人，吉田 秀樹，義澤 康男，中辻 秀憲，大和 勇一				

*：医学研究科医療創成工学専攻

【送金方法】

- ・年会費は、2,000円/年、複数年（5年分 10,000円）前倒し納入も可能です。
- ・機械クラブの会計年度は、1月～12月です。
- ・年会費・ご寄附振込時には、氏名、卒業年・卒業回数、メールアドレスなどをご記入して頂きますようにお願いします。

1. ゆうちょ銀行 振替口座（神戸大学機械クラブ）をご利用される場合

口座名義：神戸大学機械クラブ（コウベダイガクキカイクラブ）

口座記号・番号：01140-2-60632

1.1 あらかじめゆうちょ銀行に預けられた通帳から機械クラブの振替口座に振り込む場合は、手数料は100円です。

1.2 振込取扱票利用時（機械クラブだよりの別冊「年会費納入者名簿」の振込取扱票（赤票））

あらかじめゆうちょ銀行に預けられた通帳から機械クラブの振替口座に振り込む場合も現金で振り込む場合も、ともに昨年より手数料は無料となっています。

1.3 スマートフォンで「ゆうちょ通帳アプリ」または「ゆうちょダイレクト」利用時

- ・振替口座への送金手数料は、月5回まで無料です。

アプリ登録の詳細は、ゆうちょ銀行ホームページを参照ください。

https://www.jp-bank.japanpost.jp/app/app_tsucho.html

2. 三井住友銀行 普通預金口座（神戸大学機械クラブ）をご利用される場合

口座名義：コウベダイガクキカイクラブ

口座番号：普通預金 六甲支店 1202658

- ・あらかじめ預けられた通帳から機械クラブの振替口座に振り込む場合は、手数料は無料です。
- ・現金で振り込まれる場合は、別途加算手数料（550円）が必要です。
- ・インターネットバンキング利用は、振込手数料の特典もありますので、是非ご利用ください。

【機械クラブだより 第28号】

発行所：神戸大学機械クラブ

発行人：会長 井宮 敬悟

発行日：2025年9月1日

連絡先：(メールアドレス) kcm@kcm-kobe.com
(ホームページ) <https://kcm-kobe.com/>